

令和4年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和4年8月24日（水）午前10時00分～午前10時50分
- 2 場 所 山梨県庁本館2階県民生活部会議室 他（Web会議による）
- 3 出席者 委員 一之瀬滋輝 一瀬礼子 徳永保 中村和彦 山口由美子
法人 早川理事長 丹沢副理事長 吉田理事 ほか
事務局 百瀬県民生活部次長 林私学・科学振興課長 ほか

<委員長あいさつ>

まだまだ暑い時期であるが、評価委員の皆様方のご協力により、無事に評価報告書が取りまとめられそうである。本日もご意見等よろしく願います。

<議題>

- （1）令和4年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、案のとおり了承された。

<議題>

- （2）公立大学法人山梨県立大学令和3年度業務実績に関する評価結果（案）について

○事務局

資料2及び参考資料3、4により説明。

○委員長

17ページの「利益相反の有無の審査状況が確認できることが望ましい」という記述について、委員の方からもっとわかりやすい表現について提案があればお願いしたい。

○委員

法人から提出された実績報告に関する資料の中で、この審査状況について確認できる資料がなかったため、評価にあたって資料を見せてほしいという意図で記述したものである。

○委員長

昔アメリカの連邦議会公聴会において、喫煙は健康に危害を及ぼさないと話をした研究者がいたが、実はその研究者は20年間に渡ってたばこ会社から毎年数億円の研究費をもらっていたことが後で分かり大問題となったが、そのようなことはあってはならないので、ぜひ利益相反についてきちんと審査が行われて、それが確認できる資料、そのような資料を評価の際には提示して頂けるよう法人には願います。

それから、20ページのところ、令和4年度の年度計画では、山梨大学との連携ではなく県立大学が単独でリカレント教育を行う計画になっているということなので、「山梨大学との共催によるリカレント講座の実施が次年度以降確実に実施されることを期待する」という記述は削除ということによろしいか。

○委員

20ページの記述については削除しても大丈夫かと思う。10ページにも同様の記述があるので、この部分も削除したほうが良いと思う。

○委員長

それでは10ページも削除することとしたい。他に何かご質問・ご意見があれば伺いたい。

○委員

20ページのリスキリングに関する記述であるが、「市町村、経済団体や企業等と連携し」という部分について、もう少し具体的に表現できるように工夫してもらいたい。

○事務局

改めて委員にご意見を伺った上で、記載を改めることとしたい。

○委員長

他にご意見等なければ、最終的に評価書を調整して委員の皆様方にはメールで送付させて頂くこととしたい。また、法人にも事実関係等の内容を確認したうえで、正式な評価書として知事あてに提出することとしたい。

<議題>

●(3) 公立大学法人山梨県立大学第2期中期目標期間業務実績に関する評価結果(案)について

○事務局

資料3及び参考資料3、4により説明

○委員長

18ページの管理運営に関する自己点検・評価に関するところであるが、ここは評価がBとなっていて、実施状況の評価事項については、「大学改革支援・学位授与機構による認証評価において高い評価を受けたことを評価する」とあるが、この部分はかなり誤解を受ける記述である。認証評価というのは教育活動に関する評価であり、管理運営に関する評価項目として記述すべきではないので、削除してもらいたい。

法人も誤解をしているようなのでもう少し詳しく説明するが、認証評価というのは、大学の管理運営そのものについての評価を行っているわけではなくて、教育活動がちゃんとできたか否かを評価するものである。それを勘違いして、教育活動に関する自己点検・評価を行えば、それが管理運営についても点検・評価を行っていると思い込んでいるようである。その勘違いを促進するような記述となっているため、この部分は削除をお願いします。

むしろここで記述してもらいたいのは、先ほどの年度評価の23ページで書いたように、組織別に配分されている資源を確認し、各組織のパフォーマンスをエビデンスベースで確認するためにどのような定量的指標を用いるべきか検討を進めることを期待する、ということ

である。県の担当者にも分かっておいてもらいたい、管理運営としての自己点検・評価というのはこのようなことである。

公立大学法人の評価制度が始まった頃は、まだ教育に関する自己点検・評価の仕組みがなく、大学の自己点検・評価といえば、教育活動の自己点検・評価とイコールだと思っても良かった。ところが、その後、政府の閣議決定された統合イノベーション戦略において、大学は、組織別に配分された資源を確認し、各組織のパフォーマンスをエビデンスベースで確認するということが求められるようになった。だから、認証評価を受けたことは何の関係もないことなので、18ページの実施状況の事柄は全部削除して、この年度評価の23ページに記載されていることを、そのままここにも記載してもらいたい。

○事務局

ご指摘のとおり、18ページについては、年度評価の23ページの評価事項、指摘事項と同様の記述とさせて頂く。

○委員長

他にご意見等なければ、第2期の評価書についても最終的に評価書を調整して委員の皆様方にはメールで送付させて頂いたうえで、正式な評価書として知事あてに提出することとしたい。

<議題>

●(4) その他

○委員

評価書全体を見て、かなり同じ文章が繰り返されているということが気になった。それで、若干ボリュームも多くなっているのかなと思う。国立大学法人の評価に関しては、現在はポイント絞って行っているの、参考までに本学の評価結果書を県の担当者に送付するので、よろしければ今後の評価方法検討の際に活用して頂きたい。

○委員長

委員のお話のとおり、国立大学では年度評価については実施をしないということも含めて簡素化も進んでいて、中期目標についても国がこういうことをやって欲しいということしか記載しないと。あとは、大学自身がやりたいことがあれば、中期目標とは別に決めてやってくださいとなっている。いわば、大学の自主性を尊重して、大学がやりたいことはどうぞという方向になっている。もちろん公立大学法人の評価そのものがそのようになっているわけではないが、国でも色々と考えているようなので、表記の簡素化について取り組んでもらえればと思う。その方が、法人としても、評価委員としても負担が減ると思うのでぜひお願いしたい。

○事務局

次回第4回の評価委員会において、評価方針や評価要領の改正について、評価委員の皆様からご意見伺いながら、取り組んでいきたいと考えている。

○徳永委員長

他に何か意見等なければ、以上で審議は終了させて頂く。

<審議終了>

●委員長より、法人に対して評価結果の伝達

○委員長

詳細なものについてはご覧頂きたいが、基本的には法人の自己評価をほぼ踏襲するような形で評価を行ったと思っている。ただ何点かは未達成の項目もあったので、そこは厳しい評価結果となっているところもある。

特にその中から重要な点だけ申し上げるが、まず、COC+Rについて、あまり実績報告書の中にきちっとした記述がなかったことが残念である。COC+Rの獲得というのは、5年間で1億円単位の外部資金を獲得したわけで高く評価できるが、このことは県民や県議会にも分かってもらえるよう工夫が必要だと考える。

一方で、新型コロナウイルスの感染蔓延という状況もあって県内就職率が目標に達しなかったということで、地域貢献のところが大変難しい評価となったが、残念ながら年度評価Bとさせて頂いた。ただこの部分に関しては、コロナ禍という中期計画策定時には予期できない事態となったときに、速やかに中期目標や中期計画を変更するという必要だったのではないかなと思う。正直言ってCOC+Rを獲得できたのに、その評価が厳しくなるというのは法人にとっても評価委員会にとっても若干残念ではある。

あと、自己点検・評価については、10年ほど前であれば、今の認証評価と同じような教育に関する設置基準上のものしかなかったが、現在では、むしろ資源をいかに組織的に配分し、そしてパフォーマンスを上げてもらうかということが重要である。そのためにはまず法人の方で、各組織にどれだけ資源が配分されて、それがどのように使われているのか、パフォーマンスを上げられているのかをきちっと把握してくださいということをして2018年あたりから国としても全国の大学に呼びかけを行っているが、山梨県立大学は取り組みが少し遅れていると判断し、少し厳しく評価させて頂いた。

最後にこれからの期待というところで申し上げるが、今はデータサイエンス等を中心に経済活動が変わっている中で、産業構造それから雇用労働市場も大きく変化をしている。そういった中で、大学と企業が連携をした活動、或いはリスキリングといったものが期待をされているので、ぜひ「山梨県立大学には請負う学部がないから」ということでなくて、いろいろなことが出来ると思って取り組んで頂きたい。いろんな地方自治体、或いは企業や経済団体と協議を進めながら、県立大学として、山梨県に貢献していくための取り組みを進めて頂くことを期待している。

●公立大学法人山梨県立大学 理事長より挨拶

○理事長

委員長はじめ、評価委員の皆様には、まずは本学の令和3年度の業務実績に対して、厳正かつ厳格な評価を行って頂き、厚くお礼を申し上げます。また、今年は並行して第2期の6年

間の評価作業を行って頂き、大変な労力をおかけしたことに重ねてお礼を申し上げます。

今、委員長より講評を頂いたところであるが、この評価結果を真摯に受けとめ、今後の改善に向けて取り組んでいく所存である。

また、今回実績の記入方法についてもご指導頂いた。各担当理事を筆頭に限られた少人数のスタッフで、他の業務と平行して実績をまとめ上げていくという作業を行っているので書き切れない部分があった。今後、改善して参りたい。

評価におけるご指摘の中に、大学機関別認証評価、そして法人評価、それぞれの目的と関係性を整理して対応する必要性というのもご指摘を頂いた。これももちろん重要なことなので、対応していきたいと考えている。ご承知のように公立大学におきましては、2020年度から、大学教育質保証・評価センターによる認証評価が行われており、この中では法令適合性の評価に加えて、特色ある教育研究の評価という項目の中で、COC+Rのような地域貢献に関する教育研究事業も強くアピールすることができるようになっていて、また書類に関しても簡潔なポートフォリオ様式に沿って提出をしていく等、公立大学にあった評価方式がとられていると認識をしている。今後はこういった大学の教育研究に係る質保証評価、これは本学においては令和6年度以降になると思うが、そして今回の業務実績に関わる法人評価、双方に効率よく対応できる体制を整えて、本学の教育研究、また業務の改善等に努めていく所存である。

以上